2/8 赤旗

# 原油高騰 くらし・農業直撃

原油価格の高騰がくらしを直撃しています。寒冷地では、暖房にかかせない灯油の値上がりで悲鳴があがっています。農業で使用する重油も高くなり、農家の負担や農産物の値上がりへとつながっています。

（井上拓大、小酒井自由、林真子）

## 生活保護 札幌の利用者

## 膨らむ暖房代 食費切り詰め

記録的な大雪に見舞われる北海道。札幌市で生活保護を利用しながら、子ども2人で暮らす高野弘子さん（50代）＝仮名＝も、寒さと灯油高の影響を受けています。

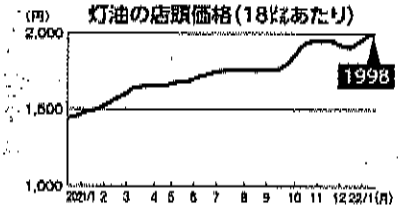
### 冬季加算足りず

高野さん宅で、2020年10月からの7カ月間にかかった灯油代は、9万9千円。この冬は21年10月からの4カ月間ですでに10万2千円を超えています。今年1月分だけでも3万3千円でした。

夜は外気温がマイナス10度を下回る札幌。「夜中に暖房をつけないという選択肢にはならないと思う。水道凍結の心配もある」と高野さん。ストーブの設定温度を下げて夜を越します。寝るときは難い。窓に隙間テープを貼るなどしてしのぎます。

生活保護制度には、防寒着や灯油代などにあてる「冬季加算」があります。2人世帯だと北海道では、月約1万8千円。ただ高野さんに必要な灯油代には足りません。

経済産業省によると、灯油の店頭価格は昨年1月25日は18ℓあたり1487円でした。それが今年1月31日には1998円、約34%値上がりしています。




北海道生活と健康を守る会連合会の柳川久美子副会長は、「冬季加算で足りない分、食費を切り詰めるんです。1日3食から2食に減らした世帯がとても多い」と指摘します。

「暖かさでも体力を使います。食はエネルギーの源なのに、食費を削って命をつないでいます。政府の責任で、冬季加算を上げなければどうしようもない」

## 千葉 トマト農家

## ハウス用重油は12万円割高

### 価格転嫁できず

農業などで燃料用に用いられるA重油の納入価格（大型タンクローリー）は、資源エネルギー庁によると、昨年1年間を通して上昇しています。昨年1月は、1ℓあたりの全国平均額が82・6円でしたが、同12月には83・3円となっています。

燃料費高騰で影響を受けるミニトマト栽培農家＝7日、千葉県佐倉市（斉藤和守さん提供）

ビニールハウス栽培でミニトマトを生産する斉藤和守さん（51）＝千葉県佐倉市＝は、ハウス内の暖房用にA重油を使っています。「昨年よりも1ℓあたり20～30円くらい上がっていて、燃料を一回仕入れるたびに12万円くらい高くなっています」と言います。

さらに今年は寒い日が多く、燃料の減りが早いため二重の打撃になっています。毎年燃料は2回の仕入れで済んでいました。今年はすでに3回仕入れています。少しでも燃料費を抑えようと、作物に影響が出ない程度にハウス内の設定温度を下げるなど例年にない対応をしています。

現在、7、8店舗の直売所に生産品を卸している斉藤さん。燃料費の高騰で、値上げは避けられませんでした。「1パック20円の値上げを半分の店舗でしました。ただ、これまで同じ値段でやってきたので、値上げしづらい部分もあります」と述べ、すべての生産品に価格転嫁できない状況だと言います。